

アスパラガスの最適な生産方法

1. 試験のねらい

栃木県におけるアスパラガス栽培は、収益性が高いため、宇都宮市および大田原市を中心に栽培面積が増加している。そこで、アスパラガス栽培で高収量を上げるための春芽収穫期間および立茎の太さならびに摘心および側枝の管理について明らかにする。

2. 試験方法

(1) 春芽収穫期間と立茎の太さ

3年目株(2005年)～4年目株(2006年)、農業試験場黒磯分場内パイプハウス(表層腐植質黒ボク土)で実施した。品種はウェルカムを供試し、試験規模は1区6株(2.7m²)の2区制とした。処理内容は以下のとおりである。

春芽収穫期間(日)	立茎の太さ(φ・mm)	注. 立基本数は10mm 区が10～11本/m ² 、 14mm区が8～9本/m ² 、とした。立茎の 摘心位置は120cmで行った。
40	10	
55	×	
70	14	

(2) 摘心および側枝管理

3年目株(2005年)～4年目株(2006年)、農業試験場黒磯分場内パイプハウス(表層腐植質黒ボク土)で実施した。品種はウェルカムを供試し、試験規模は1区6株(2.7m²)の2区制とした。処理内容は以下のとおりである。

摘心の位置(cm)	側枝の整枝幅(cm)	注. 擬葉8割展開時に摘心、整枝は立茎 開始60日後から月1回、9月まで行っ た。
150	80(弱整枝)	
×		
120	60(強整枝)	

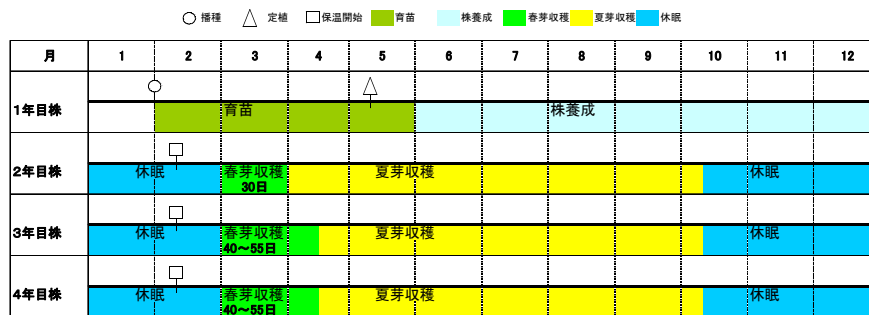
3. 試験結果および考察

- (1) 1年目から4年目までの栽培体系を図-1に示した(参考)。
- (2) 3～4年目株の春芽収穫期間が40日で立茎の太さ10および14mm、55日の14mmで2年間の合計可販収量が多かった。また可販率は春芽収穫期間40および55日の太さ10mmが高かった(図2、3)。
- (3) 3～4年目株の摘心位置は150cmで側枝の整枝は80cmの弱整枝が、2年間の合計可販収量および可販収穫本数が多く、可販率も優れた(図-4、5)。

4. 成果の要約

アスパラガス(品種・ウェルカム)3～4年目株は、春芽収穫開始40～55日後程度が可販収量が多く、立茎径は10～14mmが適する。また、3年目株の摘心管理は、摘心の位置が150cmで、かつ、側枝を弱整枝の80cmとすることで可販収量が増加する。

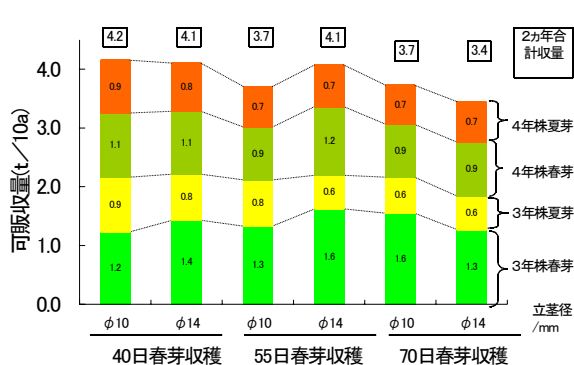
(担当者 黒磯分場 畠山昭嗣、大金美佐江*) *現 那須農業振興事務所



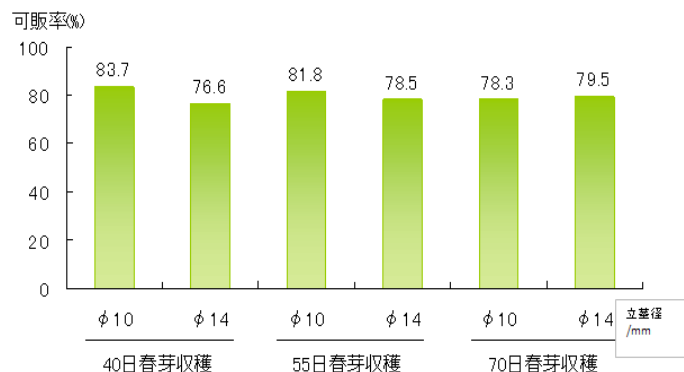
図－１ アスパラガス半促成長期取りの一般的栽培体系

- 注． 1年目株(2003年)：5月20日に畝間150cm、株間30cmで定植した。
 2年目株(2004年)：堆肥を0.3t/a全面に施用し、窒素4.0kg/a、リン酸1.8kg/a、加里4.0kg/aを冬肥、春肥、夏追肥に分け施用した。
 3年目株(2005年)：堆肥0.3t/a、窒素、リン酸、加里をそれぞれ4.0、1.8、1.8kg/a冬肥、春肥、夏追肥に分け施用した。保温は内張＋トンネルの三層とし2月16日から行い、4月2日にトンネル被覆を除去した。
 4年目株(2006年)：保温は2005年と同様の方法で2月16日から行い、4月4日にトンネル被覆を除去した。

収穫期間（2005年3月～2006年10月）

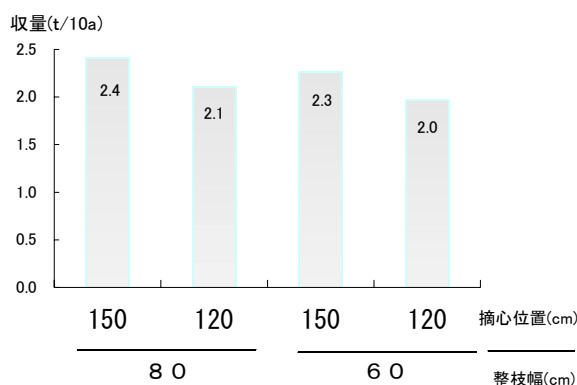


図－２ 春芽収穫期間及び立茎の太さと可販収量(2222株/10a換算)

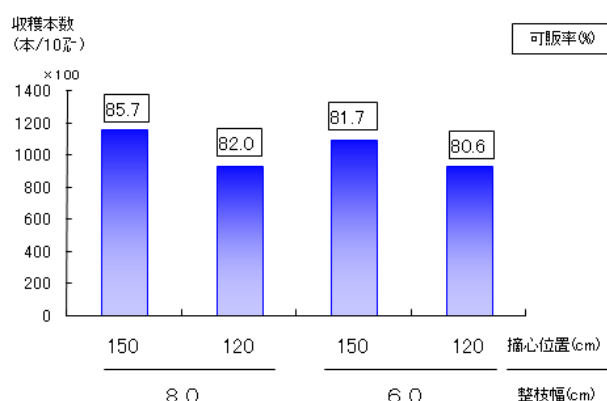


図－３ 春芽収穫期間及び立茎の太さと可販率

収穫期間(2005年6月～2006年5月)



図－４ 摘心及び側枝の整枝管理と可販収量(2222株/10a換算)



図－５ 摘心及び側枝の整枝管理と可販本数及び可販率(2222株/10a換算)